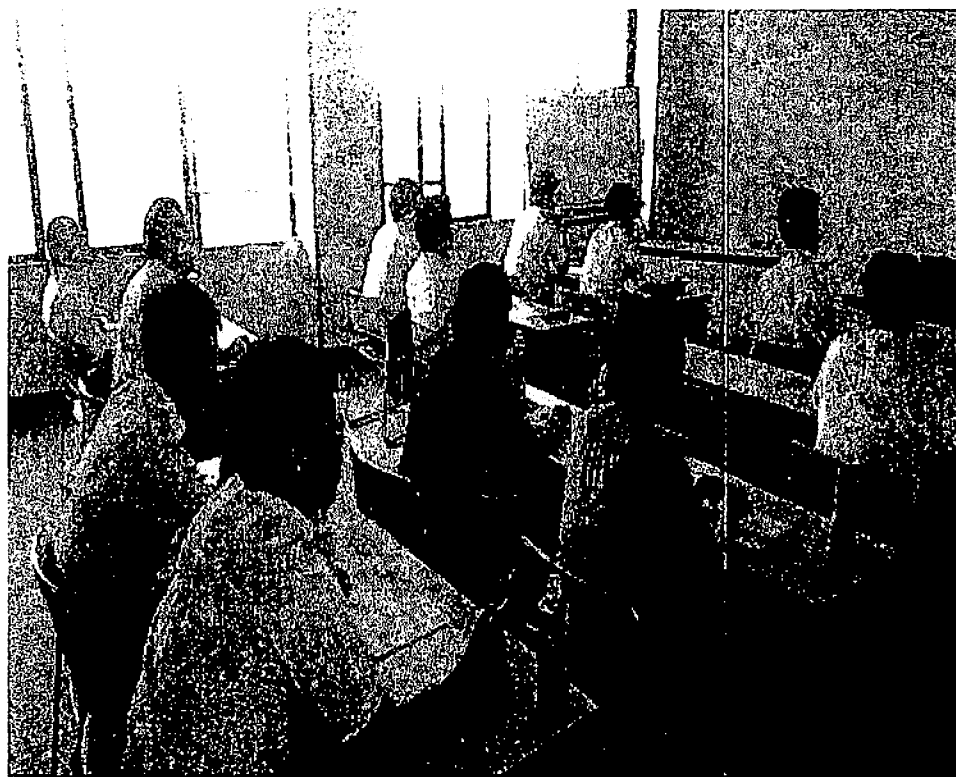


第68次 印旛地区教育研究集会 安全教育分科会

研究テーマ

～ 学校での実践に生かせる魅力ある安全教育研修会を目指して、
研修会の持ち方を工夫すると共に、
児童・生徒が安全に学校生活を送るための実践を研修していく～



第三部会安全教育研究部

印西市立 印西中学校
澤口 大

I 研究主題

～ 学校での実践に生かせる魅力ある安全教育研修会を目指して、
研修会の持ち方を工夫すると共に、
児童・生徒が安全に学校生活を送るための実践を研修していく。～

II 研究主題について

児童・生徒の命を守ること・安全な学校生活が送れるようにする事は、最も大切な事である。子どもたちの安全意識を高めていくためには、それを指導する教職員が、安全に関する高い関心と、深い知識を持っていなければならない。主に安全主任を対象とした研修会は、どう改善すべきか。また、より多くの教職員が関心をもって参加できる研修とは、いかにあるべきかを考え、研究主題を設定した。

III 研究仮説

- ① 魅力ある研修会を企画すれば、参加する教職員も増えるであろう。
- ② 様々な考え方や情報を共有化することで、研修会がさらに活性化されるだろう。
- ③ 安全主任の意識が高まり、学校現場でいかせる知識や情報を得ることができるであろう。

仮説の検証として・・・

- ① 年2回（7月 & 1月）の安全研修会を行う。
- ② 各校安全主任個々の悩み等直面している課題や問題点→参加者同士で情報交換や情報の共有化をはかる。
- ③ 安全主任（安全教育担当職員）の安全に対する意識が高まり、学校現場でいかせる知識・情報を得るための情報交換や研修会後の感想等を集約する。

IV 三部会地域の様子と安全について

○地域の様子

印西市・・・千葉ニュータウンの開発により多くの企業が進出した。千葉ニュータウン中央駅および印西牧の原駅周辺は、印西市における経済・産業の中心地となっている。また、関東平野の中で活断層が無く岩盤が強固とされることから、防災上の理由で多くの金融機関が千葉ニュータウン内に事務センターや郵便局の東日本貯金事務計算センターを配置している。東日本大震災以降、災害へのリスクヘッジとして、大企業が印西市を拠点に置くことが増えたと同時に、北千葉道路の一部開通により、都心と成田空港の中間に大敷地でアクセスが良いのが注目され、物流倉庫が多く建設された。別名「物流城下町」と呼ばれている。宅地造成やマンションの建築も盛んであり、分譲地には有名ハウスメーカーが競争して販売している。市を横断するかたちで北総線および国道464号が通り、南北を縦断するかたちで国道16号および木下街道が走る。

白井市・・・以前は純農村地帯であったが、1979年に北総線が開通し「千葉ニュータウン」への入居が開始されたことにより、ベッドタウンとして開発が進み人口が増加した。一方で、北部では豊かな自然も多く残り、都市と自然のバランスがとれた開発が進められている。

隣接する印西市や、周辺の佐倉市、四街道市、成田市、八街市、富里市と印旛郡の2町と合わせて印旛地域と呼ばれることもある。なお、印旛地域の中では最も東京寄りに位置する。

①交通安全

○印西市

年	H25	H26	H27	H28	H29
発生件数	262	228	221	227	224
負傷者数	337	294	277	295	277
死者数	3	0	1	2	3

※参考資料 「印西市交通安全対策会議資料」より
千葉県警交通白書より

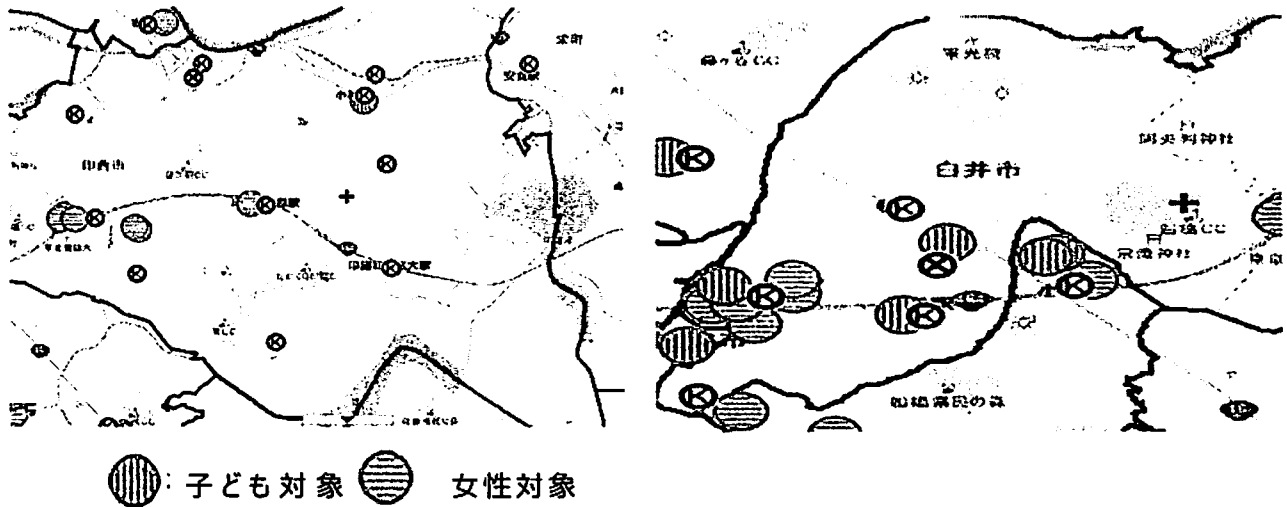
○白井市

年	H25	H26	H27	H28	H29
発生件数	158	192	164	171	181
負傷者数	202	242	217	215	227
死者数	2	1	4	2	3

※参考資料 白井市HPより
千葉県警交通白書より

現在、交通事故発生件数は横ばいの状況であるが、両市ともに幹線道路が通り、最近商業施設の増加や住宅開発も進められているため住民も増加している。464号線が成田市まで延伸開通し、両市に入る交通量も増えていき、様々な場面での安全指導が求められている。

②生活安全



検挙事件

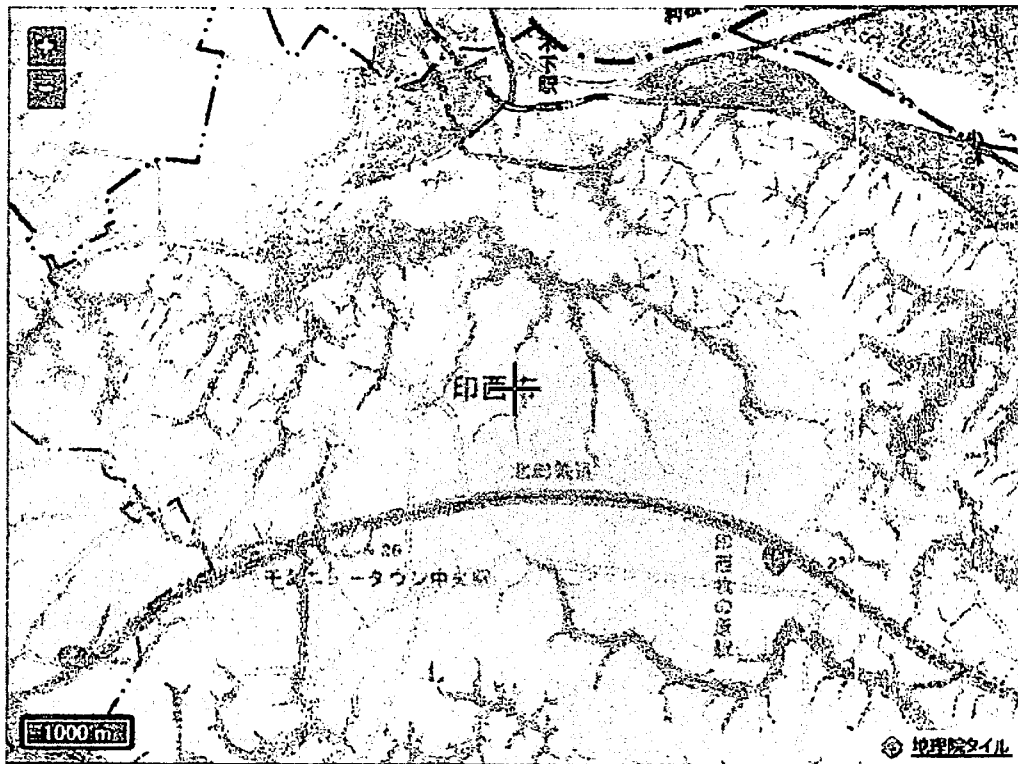
- 印西露出H29.12.21 印西市小林H30.1.5
駅構内で下半身を露出した男を検挙
- 印西露出H29.11.16 印西市小林H30.1.5
駅構内で下半身を露出した男を検挙
- 印西声かけH30.6.9 白井市南山1丁目H30.6.10
公園内で男児に声を掛けた男を検挙

昨年3月に起きた我孫子市で小学生の連れ去り殺害事件以降、不審者に対する意識は高まっている。不審者情報として、声掛け事案や露出事案などが毎日のように学校へ入り、児童生徒への呼びかけを様々な場面で行っている。印西市では中学校へ不審者が侵入し、教師が取り押さえたといったこともあり、門扉の確認や昇降口の管理の徹底を行っているところである。部会の研修会でも不審者への対応方法や、不審者対応避難訓練の進め方などを学びたいと思っている先生方が多い。

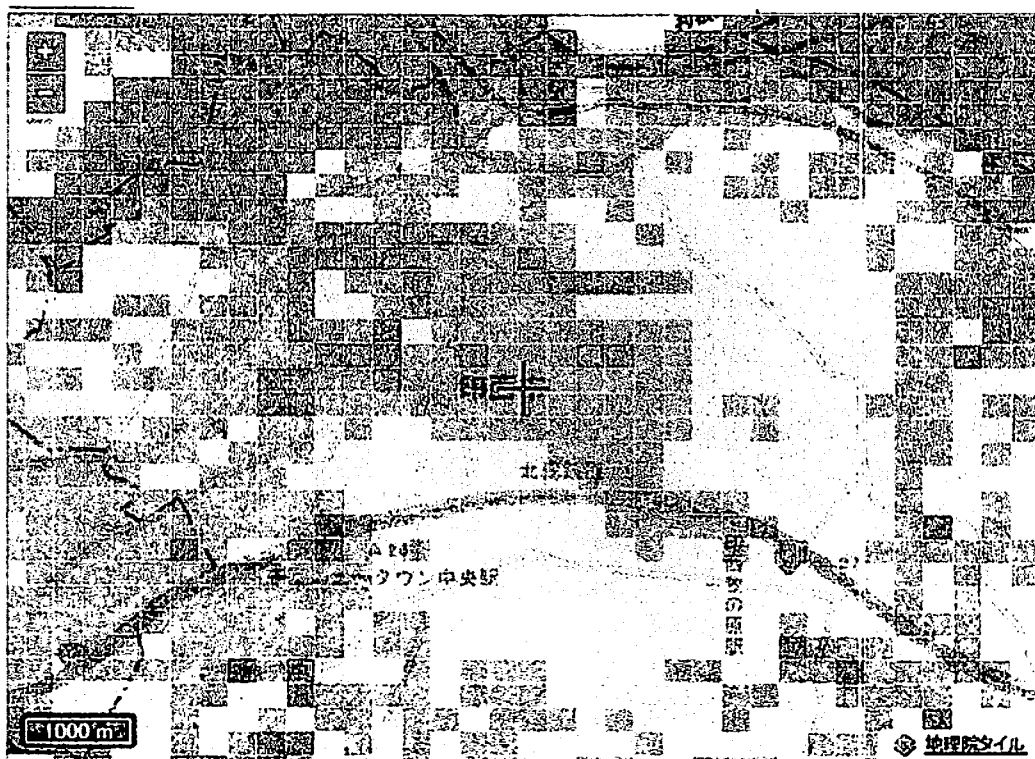
※参考資料 「千葉県警生活安全マップ」より

③災害安全

○印西市



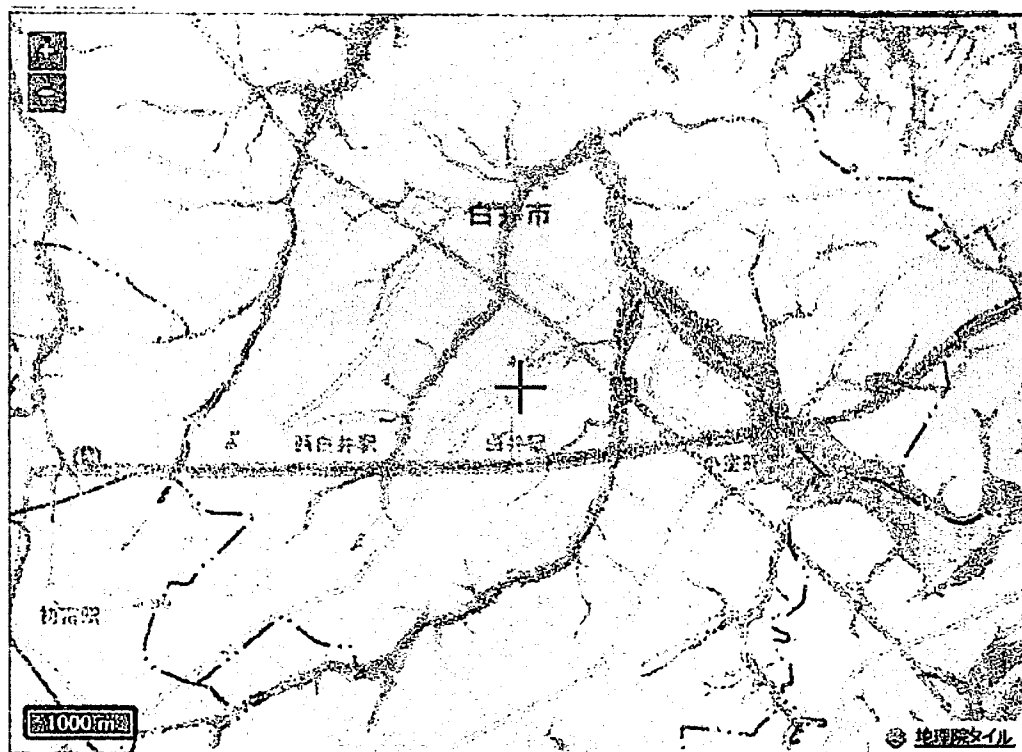
- 台地
(地盤が固く揺れにくい)
- 谷底平野・氾濫平野
(地盤が軟らかく揺れやすい)
- 明治期の水田
(地盤が軟らかく揺れやすい)



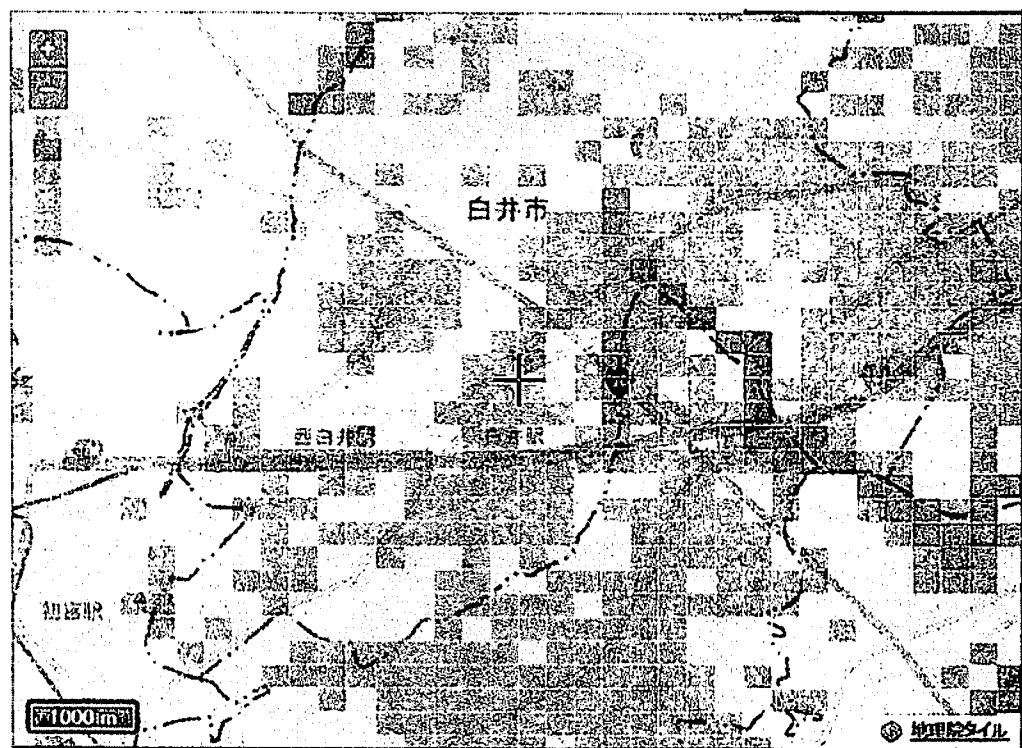
- 非常に揺れやすい
(1.65 -)
- 揺れやすい
(1.50 - 1.65)
- やや揺れやすい
(1.35 - 1.50)
- やや揺れにくい
(1.20 - 1.35)
- 揺れにくい
(1.05 - 1.20)
- 非常に揺れにくい
(- 1.05)

印西市は下総台地の上に立地し、地盤は強固であると言われている。しかし、利根川沿いは昔水田であったり、河川であったため地盤が緩い。東日本大震災では、震度6弱の揺れを観測し、市内の一部で液状化の様子も見られた
東日本大震災の被害・・・全壊11棟、半壊74棟、一部損壊2212棟

○白井市



- 台地
(地盤が固く揺れにくい)
- 谷底平野・氾濫平野
(地盤が軟らかく揺れやすい)
- 明治期の水田
(地盤が軟らかく揺れやすい)



- 非常に揺れやすい
(1.65 -)
- 揺れやすい
(1.50 - 1.65)
- やや揺れやすい
(1.35 - 1.50)
- やや揺れにくい
(1.20 - 1.35)
- 揺れにくい
(1.05 - 1.20)
- 非常に揺れにくい
(- 1.05)

白井市も下総台地の上に立地し地盤は強固であるといわれている。東日本大震災では、家屋の被害が一部損壊しか見られず、千葉県でも被害の少なかった市町と言える。

東日本大震災の被害・・・一部損壊 4 2 2 棟棟

※参考資料「ちば被害想定ホームページ」より

V 研究の内容・具体的な取り組み

1. 20年度の取り組み（参加者14名）

◎研修内容 講話

「インターネットの現状と対策」

～実態を知ろう、携帯電話やインターネットに潜む危険から子供を守るために～

※講師……千葉県警察本部所属 生活安全部 生活経済課
サイバー犯罪対策室 対策第二係
情報セキュリティアドバイザー 武藤 悦史 氏

【講話】

- ①子供達のネット ～ 光と陰 ～
- ②掲示板サイト……「2ちゃんねる」「学校裏サイト（仮称）」
- ③プロフ（プロフィール）の問題点……「前略プロフィール」
- ④メールでのトラブル……「なりすましメール」
- ⑤最近のトラブル
- ⑥携帯電話との付き合い方……「買い与えるのではなく、貸し与えてください。」
- ⑦フィルタリング（有害サイトアクセス制限）……排除される情報
- ⑧携帯電話契約時の諸設定……「迷惑メール受信拒否設定」「料金制限設定」等

2. 21年度の取り組み（参加者16名）

◎研修内容 講話

「サイバー犯罪の現状と対策」

～インターネットや携帯電話を安心して利用するために～

※講師……千葉県警察本部所属 生活安全部 生活経済課
サイバー犯罪対策室 対策第二課
情報セキュリティアドバイザー 警部補 澤井 志朗 氏

【講話】

- ①携帯電話・パソコンによるメールトラブル
- ②メールでの事件・出来事
- ③プロフ：危険な掲載内容
- ④プロフ・ブログでの事件・出来事
- ⑤掲示板の性質
- ⑥掲示板でのいじめ対策
- ⑦メールでのいじめ対策

3. 22年度の取り組み（参加者16名）

◎研修内容 講話・実技指導

『さすまた』の扱い方ならびに確保（逮捕）術 ～ 実技を踏まえて ～

※講師……印西警察警察署 生活安全課

・安全係	係長	警部補	門馬	正志	氏
・移動交番係	係長	警部補	石井	誠	氏
同		巡査	川上	弘子	氏
同		巡査	石井	友美子	氏
同		相談員	熱田	ゆり恵	氏

【講話】……門馬 正志 氏

- ①千葉県内及び印西警察署管内の交通事故の現状
- ②不審者等による事案
- ③不審者対応訓練の意義と推進

【実技指導（模擬実践）】……石井 誠 氏

- ①「護身」とは
- ②護身術……暴漢に手首をつかまれた時の対応……慌てない！
- ③さすまた……椅子や机でも同様

4. 23年度の取り組み（参加者24名）

◎研修内容 講話Ⅰ＋実技指導＋講話Ⅱ

- *講師1……印西市 防災課
佐瀬 富士夫 氏
近藤 伸芳 氏
- *講師2……印西市 教育委員会 指導課 指導主事 吉野 高明 先生

【講話Ⅰ】……印西市 防災課 佐瀬 富士夫 氏 近藤 伸芳 氏

「防災倉庫」の備品と扱い方 ～ 実技を踏まえて ～

- ①防災倉庫内の備品搬出と確認
- ②簡易便所の組立・解体
- ③防災倉庫内に備品格納

【講話Ⅱ】……印西市 教育委員会 指導課 指導主事 吉野 高明 先生

- ①「学区安全マップづくり」について

5. 24年度の取り組み（参加者21名）

◎研修内容 講話

- *講師……公益財団法人 日本法制学会 災害救援ボランティア推進委員会
事務局主任 天寺 純香 氏

【講話】

*『災害想像力』を身に付けさせる防災教育

- ①防災訓練による基本の取得と
・指導者の素早い決断
- ②防災教育の必要性
・釜石の事例から
- ③教科の中でより実践的な「災害想像力」を身に付けさせるためには
・安全教育の中で……
・教科の中で……
・特別活動・総合的な学習の時間の中で……
～目黒巻き・クロスロードゲーム～

6. 25年度の取り組み（参加者18名）

◎研修内容 講話

「安全教育の現状と推進」

- *講師……千葉県安全教育推進委員
四街道市立 大日小学校 教諭 芝山 卓 氏

【講話】

- 1 交通安全
①県内の交通安全の現状
②高校生の交通事故状況
③体験・実感型の交通安全教室
- 2 防災
①安全教育推進委員の協議より
②地域巡検より（福島県いわき市立豊間中学校）

③県内の小中学校避難訓練の取り組み

④千葉県の防災教育の目標

3 防犯

①大阪教育大学付属池田小学校

②アメリカの学校安全・防災教育

③千葉県の防災教育

④地域の安全マップづくり

4 効果的な安全教育

①各校の実践例

7. 26年度の取り組み（参加者19名）

◎研修内容 講話

「命は一つ、人生は一度」

※講師……元県立船橋二和高等学校

校長 猿田 明 氏

交通安全

①最近の交通事故状況（全国・千葉県・小学生歩行中の交通事故傾向）

②自転車の安全利用5則

③交通安全指導について

（交通安全の認知，感情，行動発達・

危険予測と安全な交通行動・事故防止の原則）

8. 27年度の取り組み（参加者21名）

◎研修内容 講話

「安全教育の現状と課題」

※講師……千葉県安全教育推進委員（北総地区）

成田市立向台小学校教諭 大西 里志氏

【講話】

1 学校安全

2 交通安全

3 生活安全

4 防災教育

◆講話の概要

先生の旧勤務校での実践報告や最近の県の最新情報を聞くことが出来た。「入りやすく、見えにくい場所が危険」な事。また地震想定避難訓練の場合は、「落ちてこない／倒れてこない」というできるだけ短い言葉が有効であるをご指導いただいた。

9. 28年度の取り組み（参加者23名）

◎研修内容 講話

「交通事故防止について」

※講師……千葉県交通安全推進員 高向 裕氏

◆講話の概要

交通安全とは、結局自分自身のためであるということを教員も児童生徒にもインプットしていくことが大切である。○ハンドルを握ったら運転にあらゆる可能性が生じるので、運転に集中する。脇見運転は危険で、3秒間なら約24m目隠し状態で進んでいるのと同じで非常に危険である。「注意一秒、怪我一生」的なご指導があった。

10. 29年度の取り組み（参加者19名）

◎研修内容 講話

「北総少年センターについて」

※講師……千葉県警生活安全部 少年課 主任少年補導専門員 田代 氏

久保田氏

◆講話の概要

千葉県の子少年非行について ◇刑法犯少年は、減少傾向にあるが再犯率は高い。「電話de詐欺」は、減少傾向にあるが少年の検挙人員は近年高くなってきている。少年の福祉を害する犯罪も、検挙人員・被害状況ともに高水準で推移している。「ネット犯罪」から身を守るためには「個人情報や写真を安易に掲載しない。」「ネット上の相手には会わない」「面白半分、ふざけた書き込みをしない」…等具体的な指導を受けた。

「学校における不審者対応」

※講師……印西警察署生活安全課 塩冶氏 同新岡氏【警察官】

◆講話の概要

学校では、まず「児童・生徒の安全確保」が最優先で、「侵入されない対応が重要、侵入者を捕まえるのは警察の仕事→直ぐに警察に通報して欲しい。旨指導された。

Ⅵ まとめ

本年度の研修会の参加者は13名であった。参加された先生方の感想を見てみると有意義な研修会であったと思う。しかし、文書を送しても期日に返事が帰ってきた学校は43校中28校（約60%）ほどである。当日までに参加・不参加の返事もなく且つ欠席した学校は、10校だ。第三部会の安全教育研修会は、夏季休業開始直後に開催するようにしている。それは、やはり7月中に開催することが出席率を上げると信ずるからである。どの学校でも7月中は、教職員の殆どが出勤・出張しやすいと考えるからだ。

ただし、中学校の総合体育大会が開催されている時期であり、また、小中で個人面談を7月下旬から8月初めまで計画している学校も増えてきている。時期的に難しくなっていることも感じている。

しかし、社会の今日的な課題でもある「学校生活における児童・生徒の安全確保」についての関心が高まり、「危機管理の整備」が必至であることは、誰も疑うものではない。必要不可欠なのは、間違いなく30年以内で起きるであろう大地震への備えと、毎日のように情報が学校に来る「不審者」に対する研修であろう。特に不審者に対しての教師側の対応訓練と、児童生徒の避難の仕方については、学校の情報共有の仕方など課題がある。2011年に附属池田小事件が起き、2011年には東日本大震災が起きている。事件が起きてから研修を積むのではなく、時代を見越した目が必要になってきている。

今後、どのような形で研修を企画していけば、先生方が進んで参加して下さるような研修ができるのかを、安全研究部を10年以上も引っ張ってくださった前研究部長の研修の流れを大事にしながら、安全研修推進を進めていきたい。

Ⅶ 資料

◎今年度の研修会感想を記載します。

・日々の安全に対して改めて意識を高める機会となりました。安全点検の方法などは学校に実態によって違うとは思いますが、より効率よくかつ正確に点検出来たらよいと思いました。そんな方法をいくつか知れたらと思います。施設のプロなどに任せられるのが1番良いのですが。

・キーワードを使って児童に考えさせる方法を教えていただいたのがよかったです。普段安全に関して指導する機会と言えば、朝の会や帰りの会など短時間になることが多いので、自分の伝えたいことが伝えきれないと感じていました。しかし、キーワードを示して児童に自ら考えさせることが出来れば、日ごろの安全への意識も高まり、危険予測を「ふと」したときにもできそうです。安全は常日頃からの心がけによって守られるものなので、校内にその意識を広げていけるよう努力したいと思います。

・交通ルールを守っていれば事故には合わないと子どもたちも大人も思っているところがありますが、守っていても60%以上の事故原因とは驚きました。「決めつけ」はいけないという考えは参考になりました。

「安全マップ」は低学年でい地域を回って総合の時間で作ったりしていますが、完全に「安全マップ」というよりは地域のマップ的なものになります。しっかりやろうとするとそれなりの時間がかかってしまい、上の学年ではなかなか難しいのですが、「入りやすい」「見えずらい」というポイントを告げればそこだけに集中できるので可能かなと思いました。

・交通安全・生活安全・防災教育と安全教育を進めていく中で大切な考え方をわかりやすく教えていただき大変勉強になりました。特に「自分の身は自分で守る」「まずはアイコンタクト」とか「不審者侵入時は時間稼ぎをする」や「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」などのキーワード的な周知徹底が大切であると感じました。今の学校の体制で学校として何に取り組めるか考えながら安全教育を進めていけたらと思います。特にワンポイント避難訓練は中学校でも取り入れた方が良くと思いました。参考なる資料提示ありがとうございました。

・子ども達に「やりなさい」と指示をするだけでなく、なににそれをするのかという意味（事実）を伝え納得させることが大切であると感じました。2学期に入ったらすぐに地震からの身の守り方である「落ちてこない」「倒れてこない」、危険な場所での「入りやすい」「見えにくい」などのキーワードや、手を挙げて横断する意味についてなどを伝えていきたいと思いました。

・「自分の命は自分で守る」ということを改めて感じました。その意識を育てるためには、一つひとつの行動や指導に意味を持たせることが大切だなと思いました。特に私の学級では児童自身が腑に落ちないと納得して行動してくれません。なぜ今避難訓練をしているか、なぜ「おかしも」を守らなくてはいけないのかいろいろと考えさせられました。自分で状況を判断し、どのように行動していけばよいのかを主体的に考えられる児童を育成していきたいと思っています。避難所運営ゲーム「HUG」に興味があるので、研修会などで体験してみたいです。

・不審者対応訓練やワンポイント避難訓練で自分でも悩むところがあり、今日の話聞いてとても参考になりました。安全について深く研究している講師の方のおかげで、今まで考えていなかったことも考える良い機会となりました。学校に戻ったらまずワンポイント避難訓練での合言葉と、事前指導を提案していきたいと考えています。

・各学校の避難訓練、安全行事などの実施状況が知りたいです。学校では研修をもとに訓練を行っていますが、その方法が正しいのか不明な場合もあります。特に不審者や竜巻などの地震や火災より対応が難しい状況において、どのような訓練が効果的なのかを聞いてみたいです。また、今の避難訓練の有効性など現代の最新事情を専門家の方から聞けたら良いなと思います。

1 研究主題

「子どもの安全意識を高め、行動化させるにはどうしたらよいか。」
～東日本大震災後の、市内小中学校の安全教育の取り組みの変化～

2 主題設定の理由

四街道市内には中学校 5 校、小学校 1 2 校があり、それぞれの学区の様子も様々である。平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災当日は、市内の中学校は卒業式、小学校は通常の授業をおこなっていたという。東日本大震災発生後、日本では地震に対する備えについてより叫ばれるようになってきている。一方で児童や生徒に対する不審者による事件は続き、近年はゲリラ豪雨といった事象に代表される気象の急激な変化による被害も近年多発している。従来の「地震」「火災」「不審者」に加えて、「天気」に対する備えも必要と考える。子ども自身の命を守るための、自助・共助という言葉に加え、減災という言葉も聞くようになった。このような時代の中、子どもたちとともに安全意識の向上を図るための手立てを考えるものとして、各小中学校での安全主任を中心とする安全教育への取り組み及び、児童・生徒の安全意識を高め、行動化させるための指導の参考になると考え本主題を設定した。

3 研究仮説

市内小中学校の取り組みの現状と変化をまとめることで、来る首都直下型大地震や火災・不審者といった事態に対して、今後の安全教育の取り組みの参考になり、より効果的な安全教育の活動計画や取り組みが実践できるであろう。

4 研究内容

- (1) 四街道市内小中学校の、震災から 6 年が経とうとしている現状の安全教育の取り組みと変化をまとめる。
- (2) 四街道市の震災から 6 年が経とうとしている現状の防災施策の取り組みと変化を学ぶ。

5 研究の実際

(1) 市内小中学校の震災から6年が経とうとしている現状の安全教育の取り組みと変化
震災から2年後・平成25年度と、今年度・平成30年度の、実地項目を比較した。

<平成25年度>

【中学校5校】(◆未実施, 平成24年度と同様のもの ◇工夫・改善されたもの)

実施項目	取り組み内容
避難訓練	◇ワンポイント避難訓練実施(2校) ◆訓練実施: 内容は前年度と同様(年2回, 4月・9月)(3校)
引き渡し訓練	◇訓練実施に向けて計画中(1校) ◆訓練未実施(4校)
授業	◇社会: 自然災害と防災への取り組み(1校) ◇家庭科: 防災頭巾の作成(1校)
PTA	◇PTA会費から生徒分の非常食, 水を購入する。(1校)
交流	◇宮城県七ヶ浜中学校との交流活動(1校) (新入生へのクリアホルダー(130校)の贈与, 音楽祭CD・生徒会長の手紙送付)
その他	◇毎月11日を「防災の日」とし, 担任から地震についての話をする。(1校)

【小学校12校】(◆未実施, 平成24年度と同様のもの ◇工夫・改善されたもの)

実施項目	取り組み内容
避難訓練	◇地震を重視したワンポイント避難訓練実施(1校) ◆訓練実施: 内容は前年度と同様(11校)
引き渡し訓練	◆訓練実施: 内容は前年度と同様(11校) ◆未定(1校)
授業	◇学活: 防災教育の授業を実施(1校) ・家族で話そう防災のこと ・非常持ち出し袋の中身を考えよう ・災害対応カードゲーム「クロスロード」
その他	◇食料備蓄(1校) ◇「学校保健安全計画」の作成

<平成30年度>

【中学校5校】(◆未実施, 平成25年度と同様のもの ◇工夫・改善されたもの)

実施項目	取り組み内容
避難訓練	◇ワンポイント避難訓練実施(5校)

	◇訓練実施：内容は地震・火災・不審者(年3回, 4月・9月・1月)(4校) ◇不審者についてはワンポイント避難訓練対応(1校)
引き渡し訓練	◇訓練実施(3校) PTA バザー時 体育祭実施時 ◆訓練未実施(2校)
授業	◇家庭科：防災頭巾の生徒椅子への設置(3校)
PTA	◇PTA 会費から生徒分の非常食, 水を購入する。(5校)
その他	◇食料備蓄(5校) ◇衛生面だけではなく火災発生時口を覆うものとしてハンカチ準備。(2校)

【小学校 12 校】(◆未実施, 前年度と同様のもの ◇工夫・改善されたもの)

実施項目	取 り 組 み 内 容
避難訓練	◇ワンポイント避難訓練実施(12校) ◇天候(雷雨 竜巻 豪雨)を想定した避難訓練(2校)
引き渡し訓練	◇授業参観または運動会またはバザーでの実施(12校)
授業	◇地区児童会と連動して行う(2校) ◇昇降口から門まで整列移動し, 交通安全意識を高める(2校) ◇バス通学者安全指導(1校) ◇専科授業の際学級担任は職員室待機(1校)
その他	◇食料備蓄(9校) ◇「学校保健安全計画」の作成

(2) 四街道市の震災から6年が経とうとしている現状の防災施策の取り組みと変化
震災から2年後・平成25年度と、今年度・平成30年度の、実地項目を比較した。

<平成25年度>

四街道市地域防災計画

平成24年度の防災アセスメントの結果を受け, 修正作業中

災害対策本部を整備

危機管理室との連携を, 本部会議における情報共有化のため, 災害対策本部会議室を危機管理室に併設するかたちで空間を整備し, 設置した。

災害現場と通信し情報を共有するため, 現場からの報告を受けるモニターを設置。今後においては, 情報一元化システムや市民に情報を配信するシステムなどを整備していく計画になっている。

防災行政無線 移動系 追加整備

中継局改修予定
福祉避難所（福祉施設）への整備予定

防災井戸 追加整備

改修予定 2箇所（中学校含む。）

<平成 30 年度>

四街道市地域防災計画

平成 29 年 8 月に千葉県地域防災計画が修正されたことに伴い平成 30 年 4 月、「四街道市地域防災計画」の修正作業をおこなった。（現在のハザードマップは平成 25 年 3 月修正時の四街道市地域防災計画をもとに作成）

四街道市地域防災力向上計画（平成 30 年度修正）

平成 28 年 2 月に「四街道市地域防災力向上計画」を策定した。この計画に基づく事業は千葉県地域防災力総合支援補助金を活用し、平成 27 年度から 31 年度までの 5 か年で実施する計画としている。目的は「自助・共助の取組みを促進し、「地域防災力」の向上を図るため」。

防災行政無線通報情報

平成 25 年 4 月 1 日からメール配信サービス「よめーる」において防災行政無線情報メールの配信を開始した。それに伴い、防災行政無線の通報情報は「よめーる」配信情報一覧から確認することが可能。

四街道市避難行動要支援者避難支援全体計画

平成 26 年度策定。災害発生時に最も重要なことは自ら身を守ること（自助）だが、これまでの災害の教訓を踏まえ、平常時より、自助が困難な要配慮者（避難行動要支援者）への支援体制（共助・公助）を整備しておく必要があることから策定。

四街道市内の備蓄体制

平成 30 年 7 月 12 日現在四街道市では、地震や風水害などの災害により、大きな被害が発生した場合に備えて、市内 4 カ所に防災備蓄倉庫を設置している。各倉庫には、非常食（乾パン・缶入りソフトパン、アルファ米）、飲料水、毛布などの生活関連物資を保管しており、災害発生時に支援を必要とする市内の避難者や帰宅困難者などへの供給体制を整える。

さらに、災害時の指定避難所でもある小中学校を中心とした 16 カ所において、備蓄倉庫

の設置又は余裕教室を活用し食糧を除く簡易トイレや毛布などの生活関連物資を備蓄する。また食糧品等は毎年整備しており、保存期限が近づいた備蓄食糧は、防災学習の一環として地域の防災訓練時に提供するなどの活用をして、災害時についての防災意識の啓発を図る。

防災に関する協定締結情報

平成 25 年 2 月を皮切りに、以下の団体や会社等と防災に関する協定を結んでいる。

「災害時における相互応援協定」の締結 茨城県北茨城市

「災害時における相互協力に関する協定」の締結 四街道警察署

「災害時における物資供給に関する協定」の締結 株式会社ナフコ、株式会社ナリタヤ

「災害時における地図製品等の供給等に関する協定」の締結 株式会社ゼンリン

「災害時における支援協力に関する協定」の締結 株式会社アベックス

「災害時における防災活動協力に関する協定」の締結 株式会社三晃

「福祉避難所の設置運営に関する協定」の締結 社会福祉法人翠岳会

6 考察と今後の指針

考察

小学校と中学校全般

- ・通常の避難訓練（年 3 回）に加え、ワンポイント避難訓練の実施は全小中学校で行われている。
- ・ワンポイント避難訓練の数は学校によって差があり、月 1 回として通常の避難訓練とも並行して行う学校もあれば（年間 3 回+月 11 回の計 14 回）、月 1 回通常かワンポイントかどちらかの学校（月 11 回）、または 7 月や 3 月は実施しない学校（計 9 回）のどれかに偏る傾向がある。
- ・校種として小学校は年間 14 回か 11 回のどちらかになるのに対して、中学校は年間 9 回となった。小学校は基本学級担任が訓練を同じ児童に対して繰り返し行うことが多い。中学校は教科担任制で授業によって担任の先生が変わることから、同じ生徒に対して行うわけではないことが回数少なさに繋がっていると思われる。
- ・地震や火災については、単に避難するだけではなく緊急地震速報を放送で流したりスピーカーが停電で使えないことを想定して拡声器で大声で知らせるといった行動や防火シャッターを閉めたりするなど、災害における指導内容の工夫や様々な学校生活の場面を想定しての訓練を行う学校が増えている。

小学校

- ・従来の想定である、地震や火災・不審者に加えて J・アラートや天候の急変による退避といった事柄を想定して訓練を行っている。

- ・不審者対応の訓練については引き続き低学年の児童や特別支援が必要な生徒に対しての配慮が必要。不審者役については警察にお願いするのが一番よい。やみくもに大声をあげての訓練は児童に対してトラウマとなりうる。職員のための訓練で児童を参加させない学校もある。

中学校

- ・中学校では、引き渡しカードを作成した学校が全5校である。
- ・中学校では、引き渡しカードを用いて引き渡し訓練を実施する学校はない。小学校では確実に家の人かどうか確認をしたうえで引き渡したり兄弟のところへまとまってから引き渡すといった手順を徹底したいので、将来的には実施したい。
- ・従来は学級担任が学級活動の時間で訓練を行うことが多かったが、年間を通せば教科担任の先生の時間数が圧倒的に多いことから、教科担任の授業中での避難訓練を意図的に行なっている。
- ・不審者対応の訓練は全体として何をやっているかがわかりにくい。クラスによっては何もすることなく訓練が終わってしまったことがあった。最低限全クラス避難させるといった行動はとらせる必要がある。

四街道市

- ・震災直後と比べると、地震や火災の他にJ-アラートや天候の急変といった要素も加わるようになり、どのような事態に対しても対応が出来るような行動が求められている。
- ・震災直後は地震と津波と原発・1年前は北朝鮮のミサイル・1か月前は千葉県内でのスリーストップ減少による地震といった、実際に事象が起っている際は意識をするものの、時間が経つにつれてそんなことがあったね的な感じで意識が低くなっている様子が見られる。
- ・災害時には、近所の方などと助け合う「共助」の気持ちが大切であること、災害時にすべての被災者へ食糧や飲料水を供給することは不可能なことから日ごろから少しでも非常時のための備蓄を心掛けるようにすること（最低三日分）についての意識向上は図られている。
- ・平成23年度までの全体計画が見直され、防災への意識の高まりが見られる。例として該当の学校のPTAと協力して、災害時の生徒用の非常食を備蓄したり、災害時の避難所になることを想定しての体験や防災井戸の使用を行なった。
- ・平成27年1月13日付けで災害の種別（洪水、地震、がけ崩れなど）ごとに「指定緊急避難場所」及び「指定避難所」を改めて指定した(平成26年4月1日施行の災害対策基本法改正)。「指定緊急避難場所」及び「指定避難所」の大半は市街地にあることから、大規模な火事についての「指定緊急避難場所」は四街道総合公園のみの指定となっている。
- ・安全主任研修会では市の担当者が同席することがある。この時は市の災害への取り組みを含め、震災後の啓発事業や整備事業などが、計画的に進められている様子を知る機会となっている。

今後の指針

- ・改めて減災が大切と感じた。災害時において被害の程度が大きいと想定される課題に対して、限られた予算や資源を集中的にかけることで、結果的に被害の最小化を図る・人命が失われるという最悪の事態だけは何としても避ける。
- ・災害時に最も被害を受けるのは地域に住む市民自身である。行政と市民が協働で地域の防災力を向上させようという防災まちづくり事業が多くの市町村において取り組まれるようになりつつあり、減災はまちづくりにおける一つの戦略として浸透しつつある。学校もその一助として機能できるように児童・生徒を通して意識付けを図っていく。
- ・災害がいつどんな状況で起こっても、柔軟な対応ができるように、児童・生徒への正しい知識の伝達及び、指導・訓練を行い、常に備えておく必要がある。
- ・引き続き各学校の特色ある取り組みがあったので、良い取り組みを共有し、各学校の実態に応じて活用していく。
- ・小学校中学校問わず天候の急変による児童生徒の待機方法や引き渡しについての手順の確認は必要と感じる。バザーや運動会といった行事を利用して行う等保護者の負担も減る方法で実施ができるように検討をしていきたい。

7 参考資料

四街道市内小・中学校安全主任研修会

資料

『四街道市地域防災力向上計画』

四街道市危機管理監危機管理室

『四街道市地域防災計画』

四街道市危機管理監危機管理室

第2部会安全教育研究部

第2部会の紙上提案 富里市立根本名小学校 小倉 司

1. 研究主題

児童・生徒の命を守るための行動
～不審者侵入時の対応について～

2. 主題設定の理由

学校において、児童・生徒の安全で安心な環境での学習活動等が行われることはとても大切なことである。しかし、学校に侵入した者により児童・生徒が殺傷される事件は、京都市立日野小学校（平成11年）、大阪教育大学附属池田小学校（平成13年）、宇治市立宇治小学校（平成15年）等があり、近年では富山市立奥田小学校の拳銃発砲事件と、不審者侵入により児童・生徒の命が危機にさらされる事態は無くなることはない。

過去の事件から、危機管理マニュアルの改訂、防犯設備の見直し、地域との連携と、様々な取り組みが各学校で行われている。その中で、不審者対応のマニュアルに絞って考えてみると、各学校の規模・教室配置など様々な違いがあり「これが必ず正解」というマニュアルはない。また、北総管内の教諭の人数（千葉県教育委員会 平成28年度-学校教員統計調査）を見てみると、最も多いのは50～59歳の教諭で37%、次いで40～49歳の教諭で23%、19～29歳と30～39歳はともに18%となっている。40～60歳で50%を超えており、その教諭が順次退職されていくので、年齢の若い教諭が主となって対応を考えなければいけなくなってくる。そのことから、年齢や経験の若い教諭の安全に関する知識・技能の向上も必要となってくると考える。

そこで、本研究では学校のより一層の安全を考え、不審者が侵入したとき、どのように行動・対応すれば、児童・生徒の命を守れ、さらに自身の命を守れるか考え、安全に対する知識・技能が高められる研修や訓練に取り組めるよう、本主題を設定した。

3. 研究仮説

- ① 不審者とは、どのような仕草や心理かを理解することで、早期発見、声かけをすることができるであろう。
- ② 不審者が侵入してしまったとき、どのように対応していけば良いか、研修・訓練を通して経験することで、実践で素早く対応することができるであろう。

参考文献・資料

- ・文部科学省 学校施設防犯対策悲観する調査報告書
- ・千葉県教育委員会平成28年度-学校教員統計調査公立小学校統計表（全県・各事務所別）
- ・セコム 安心子育て応援サイト子どもの安全ブログ
<https://www.secom.co.jp/kodomo/a/20140116.html>

印旛地区教育研究会（安全教育分科会）紙上提案資料

平成30年8月22日（水）
 第4部会安全教育研究部
 八街市立交進小学校
 安全主任 伊藤 俊介

1. 研究主題

事故にあわない、起こさないための危機管理能力の育成
 ～自転車のルールを通して～

2. 主題設定の理由

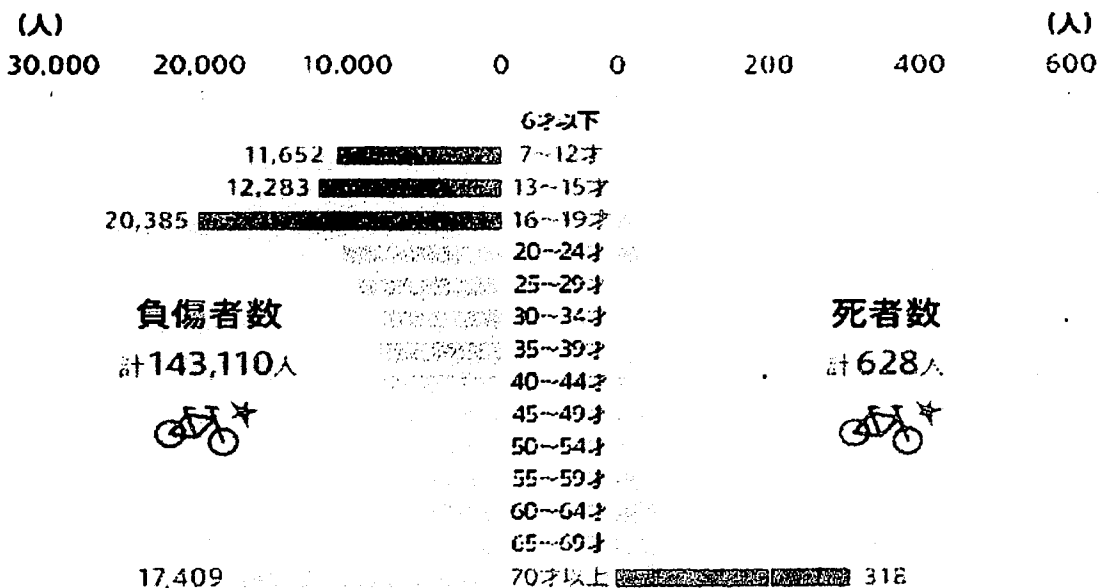
近年、自転車と歩行者との間で起こる事故が多発し、社会問題となっている。歩道を歩いていて自転車と接触しそうな経験のある人も多いと窺われる。また、2011年に行われた年齢別自転車乗用中負傷者及び死傷者数の実態によると7～19歳の自転車乗用中の事故が多発していることがわかる。

課題の1つ目に、交通ルールを理解していないことが考えられる。自転車は、老若男女問わず誰にでも乗ることができ、便利な乗り物である。しかし、その反面交通ルールを知らずに乗ることができてしまうことが問題である。そのため、小学校の段階で正しい交通ルールを身につけ、実践していく学習が必要であると考える。

課題の2つ目に交通事故を未然に防ぐ力をもった児童の育成が必要であると考え。交通事故を未然に防ぐとは、自分が事故にあわないようにすることと、相手を事故に巻き込まないという2つの意味がある。具体的に周りの状況を観察・察知し、起こりうる様々な危険の可能性を未然に予測すること、そしてそれに基づいて事前に危険を回避する行動をとることが必要である。つまり、一人一人の危機管理能力を育成させることが必要であると考え。

以上のことから、危険な場面とはどのような状況かを確認し、危機管理能力を高め、正しい自転車の乗り方を学び、実践するために主題設定を行った。

年齢別自転車乗用中負傷者及び死傷者数 (2011年)



出典：(公明) 交通事故総合分析センター「交通事故統計年報」(H24) および国土交通省資料を基に作成
 ※自転車事故の実態より引用

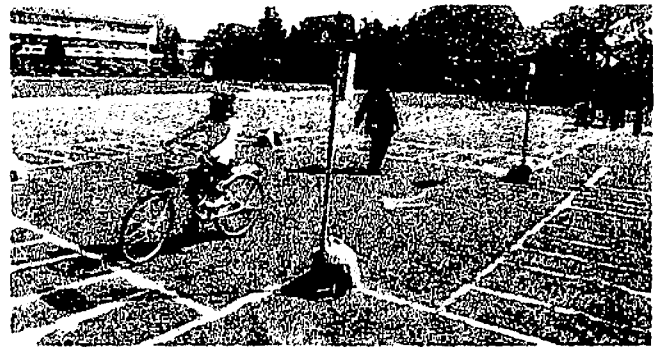
3. 研究仮説

- ①総合的な学習の場面において、自転車の正しい乗り方を理解し、実践すれば、一人一人が安全への意識を高めることができるだろう。
- ②学活の時間において、資料や具体物を通して起こりうる様々な危険の可能性について話し合えば、危機管理能力を育むことができるだろう。

4. 研究実践

①自転車の正しい乗り方の理解と実践

本校では、毎年4月に交通安全協会の方を講師として招いて交通安全教室を行っている。自転車の乗り方については、中・高学年で実施した。まず、千葉県自転車条例の施行を契機としてできた自転車の安全利用ルールを10項目にまとめた「ちばサイクルール」の確認を行った。ちばサイクルールとは、自転車に乗る前のルールと自転車に乗るときのルールである。次に模擬道路を使用した自転車での正しい横断の仕方を実践した。その後教室に戻り、学年ごとによる自転車乗車範囲の確認や振り返りを行った。



②資料を通じた危険箇所の話し合い

総合的な学習の時間において、千葉県教育委員会に記載されている交通安全啓発資料を活用し授業を行った。内容としては、1枚の絵の中に自転車に乗っている人が数名いて、その乗り方は正しい乗り方なのかを、グループで話し合った。14項目あり、話し合いが少し長引いたが、積極的に話し合いに参加している児童が多かった印象である。その後、自分達が自転車に乗るときに気をつけることを感想として書く活動を行った。

～感想～

- ・狭い道などでは一度止まり、左右を見るのが大事なのだとわかった。
- ・スピードを出しすぎてしまうときがあるので、注意していきたい。
- ・ヘルメットをしっかりかぶり、事故が起こる前にはベルを鳴らして防ぐことが大事だとわかった。



5. 成果と課題

- 児童達の事故への意識が上がったように感じられた。特に自転車の事故は、被害者だけでなく、加害者にもなりうることを初めて知った児童も多かった。
- ▲ヘルメットの普及率の低さが目立った。やはり、危機管理能力を上げるだけでなく、事故が起きた時に助かるため方法として、ヘルメットを身につけることは必要なのだと感じた。



学校現場で役に立つ防災教育

東京大学地震研究所 酒井 慎一

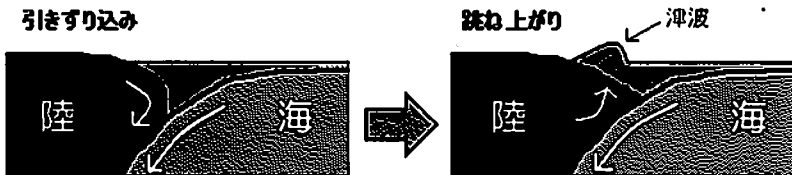
2018年8月22日 ふれあいプラザさかえ

大学の研究者は何をしているのでしょうか

1. 研究 → 科学の探求・わからないことの解明
2. 教育 → リテラシーの向上・人材育成
 - ・地震前の準備
 - ・地震時の避難と救援
 - ・地震後の復旧と復興
 - 地震のことを学ぶ気にさせる
3. 提言 → 社会へ向けた勝手な発言
 - ・国の地震観測研究に関する総合基本施策
 - ・自治体の防災対策
 - ・民間企業のBCP等

そもそも地震って何？ ほぼ正しいけど・・・

- 地震は、地面がゆれることではない
- 海溝でプレートが跳ね上がる現象のこと

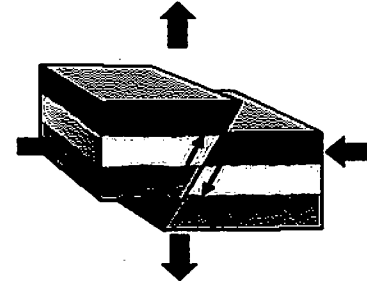


- 地震は、地下の岩石の破壊現象
- 地震は、プレート境界で起きている
- プレート運動で溜まったエネルギーを解放
- 日本はプレート境界にあるので地震が多い

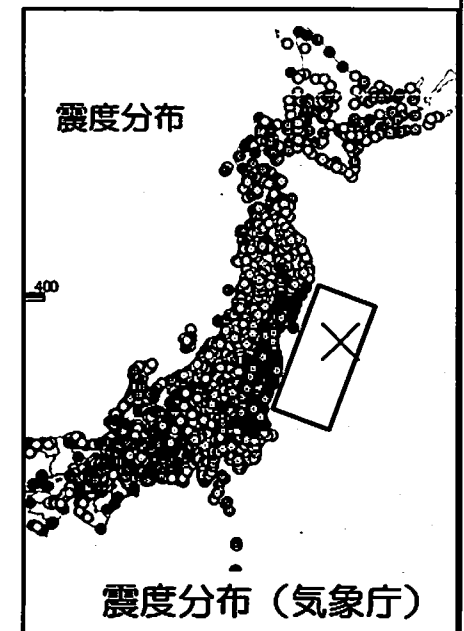
そもそも地震って何？

地下の岩石の破壊現象

地震が起きると

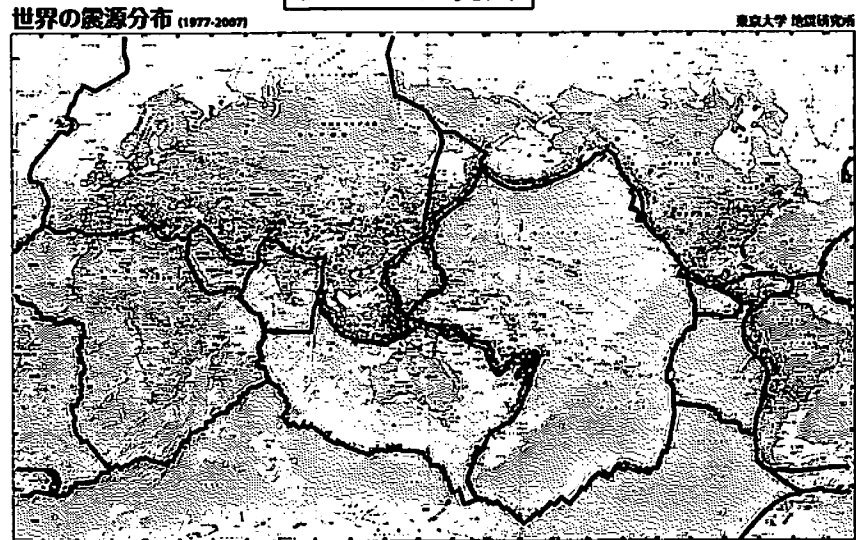


- 震源から地震波が放出され、それが各地に伝わる。
- 震源地を点で表わすが、地震は断層運動であるから、断層面の様々な部分から地震波が出ていく

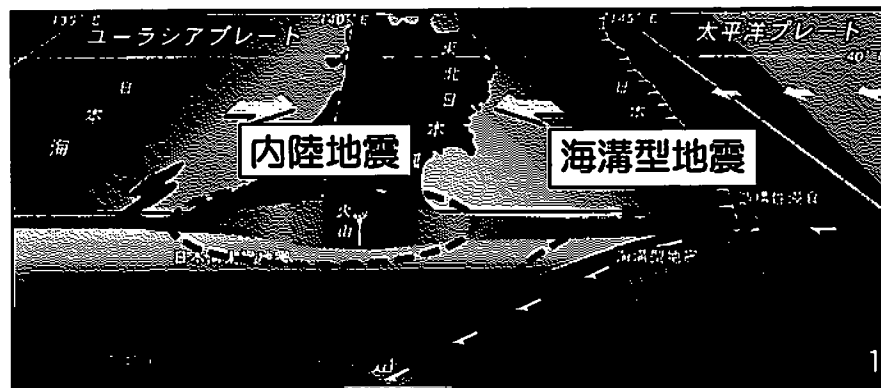


地震はどこで起きているのか？

プレート境界



地震発生の仕組み プレートの運動が鍵



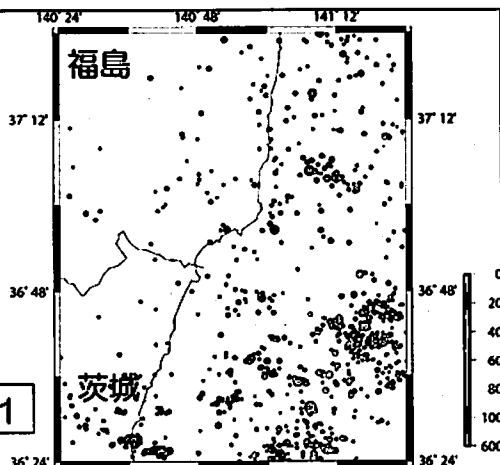
1. 日本列島には、東から太平洋プレートが沈み込んでいる
2. 東から押されて、日本列島は東西に縮み続けている
3. 日本列島は押され続けているため、内陸で地震が発生する
4. 海溝付近で大地震が発生すると日本列島を押す力が弱まる
5. プレートが沈み込むことに伴い、また力が蓄積されていく

どこで起きているのか？

プレート境界

3.11の前

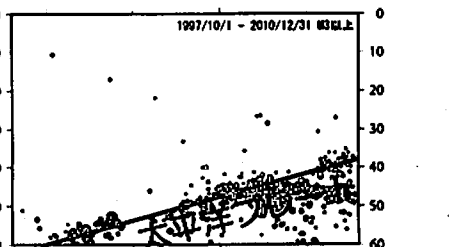
1997/10/1 - 2010/12/31



深さ断面図

- 地震が起きる場所は、ほとんどが海域のプレート境界付近
- プレート境界だけではない

Depth (km)

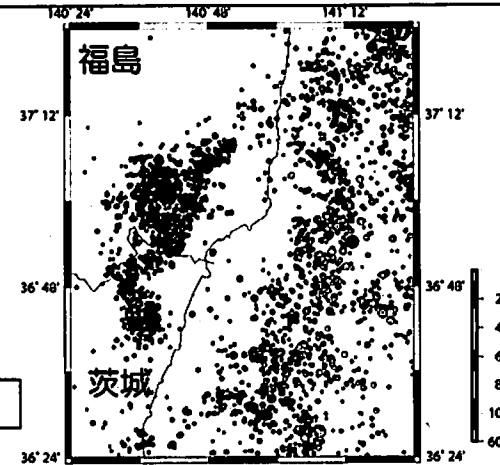


どこで起きているのか？

プレート境界 + その周辺

3.11の後

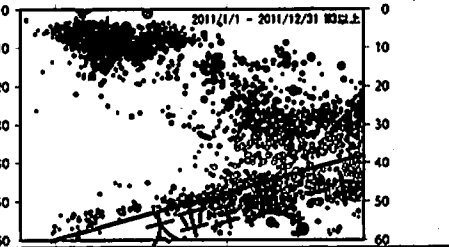
2011/1/1 - 2011/12/31



深さ断面図

地震が起きる場所と起きていない場所は何が違うのだろうか？

Depth (km)

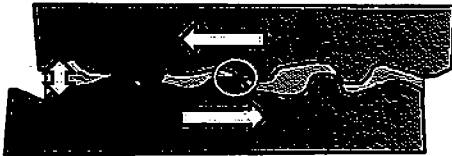


地震は、応力集中と強度低下によって起きる

- 岩石に力を加えると壊れてすべる
→ 断層面が形成される
→ 地震波が放出される

- 断層運動を引き起こすためには

1. 面のせん断力を高める → 応力集中
2. 面の摩擦を減らす → 強度低下



応力集中

強度低下

断層面内が流体で満たされ圧力（間隙流体圧）が高まると、面の法線応力が減り、摩擦が低下する。

地震に関して、どう認識しているでしょうか

- 地震とは、何でしょうか
地下の岩石の破壊現象 → 断層面でのすべり現象
- 地震は、どこで起きているのでしょうか
プレート境界や活断層 → 大小様々な断層面
- なぜ、地震が起きるのでしょうか
プレート運動で岩石にエネルギーが溜まるから
断層面の強度が下がるから
- なぜ、日本では地震が多いのでしょうか
4枚のプレートが集中しているから
プレート周辺には、摩擦の小さな断層が多い

大阪府北部の地震が発生して



M6.1は、そんなに大きくないけど

大阪府北部の地震が発生して

住民の方々の声：

大阪では地震が無いと思っていた

震度1以上の地震が起きた回数（1968-2017年）

大阪府	713回		
東京都	23,945回	(3,029回)	
京都府	964回		滋賀県 634回
兵庫県	1,602回		奈良県 887回
和歌山県	3,004回		

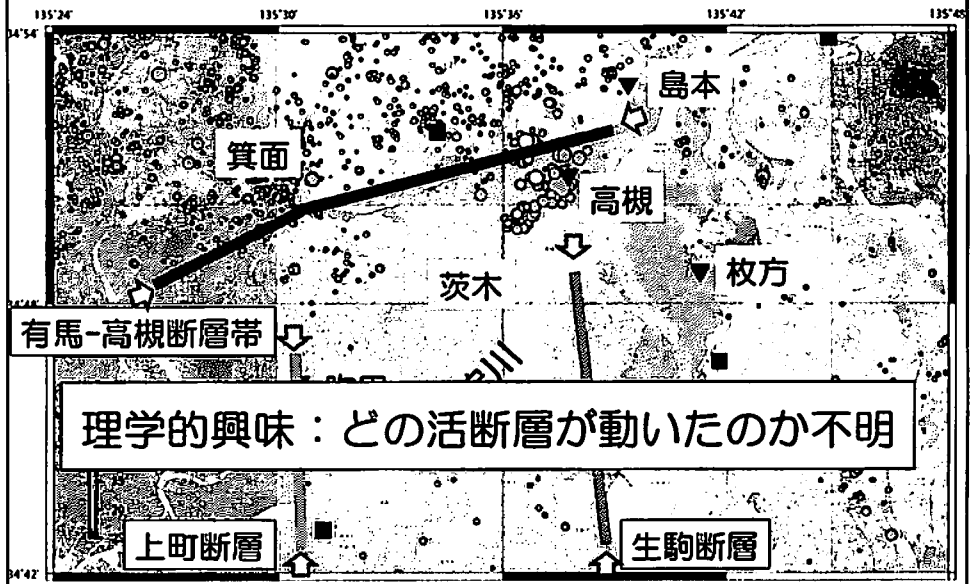
やっぱり少ない

大阪府北部の地震が発生して



活断層と地震活動は必ずしも対応していない

大阪府北部の地震が発生して 被害は少なかったが



理学的興味：どの活断層が動いたのか不明

大阪府北部の地震が発生して 被害は少なかったが
都市で大地震が起きると...

火災 社会学的懸念：東京でも起こりうる

建物被害

エレベーター停止

土手崩壊

- ライフラインの復旧
- 鉄道 その日に復旧
 - 電話 その日に復旧
 - 水道 翌日までに復旧
 - 電力 その日に復旧
 - ガス 6日後に復旧

物資の欠乏

デマ
大阪ドーム亀裂
京阪電車脱線
シマウマ脱走

大阪府北部の地震が発生して 被害は少なかったが
都市で大地震が起きたので...



- 死者4名
- 男(80) ブロック塀の倒壊
 - 女(9) ブロック塀の倒壊
 - 男(85) 本棚の下敷き
 - 女(81) タンスの下敷き

ブロック塀の改修を怠った
↓
検査を行った業者の責任
↓
高槻市教育委員会の責任

大阪府北部の地震が発生して

東京で大地震が起きたら…

生き残るためには何をすべきだろうか

- 地震が起きる前には言って欲しい
 - 特に、起きる直前に言って欲しい
- でも、起きてしまったら…
- どうなってしまうのか教えて
 - どこが危険なのか教えて
 - とにかく助かる方法を教えて

ちゃんとまわりを見て、自分で判断して行動

これまでの事を調べて、あらかじめ考えておく

東北地方太平洋沖地震

2011年3月11日



地震と津波

宮古市役所から

東北地方太平洋沖地震

津波が到達する前

7分前



地震と津波

宮古市役所前の国道を歩いていたら…

川の様子が見えないこの場所で地震の発生を感じたらどうしますか？



津波浸水想定区域

確かな知識が必要

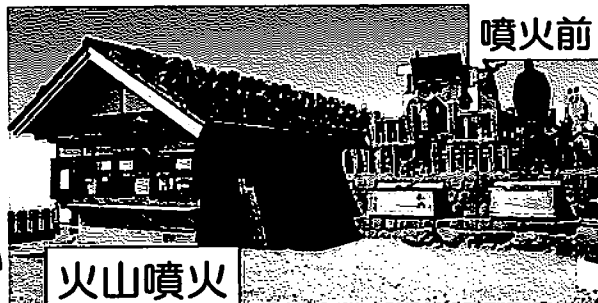
津波注意の看板

地震と津波

宮古では震度5強（東京と同じくらい）

御嶽山の噴火 2014年9月27日 御嶽神社

- 水蒸気爆発
- 低温火砕流
- マグマ噴出無し
- 微動少ない
- 噴火規模は小さい



火山噴火



御嶽山の噴火 2014年9月27日

- 日本で戦後最大の火山災害（犠牲者57名+6名）
- 噴火は35年ぶり（前回は1979年、有史以来初）
- 土曜日 + 好天 + 紅葉シーズン + 11時52分
- 危機感の少なさ（登山者、自治体、研究者）

噴火中

その時の状況と今後の推移

噴火前



大正関東地震 1923年9月1日11時58分

関東平野下に沈みこむフィリピン海プレートの海溝型地震



大正関東地震 1923年9月1日11時58分

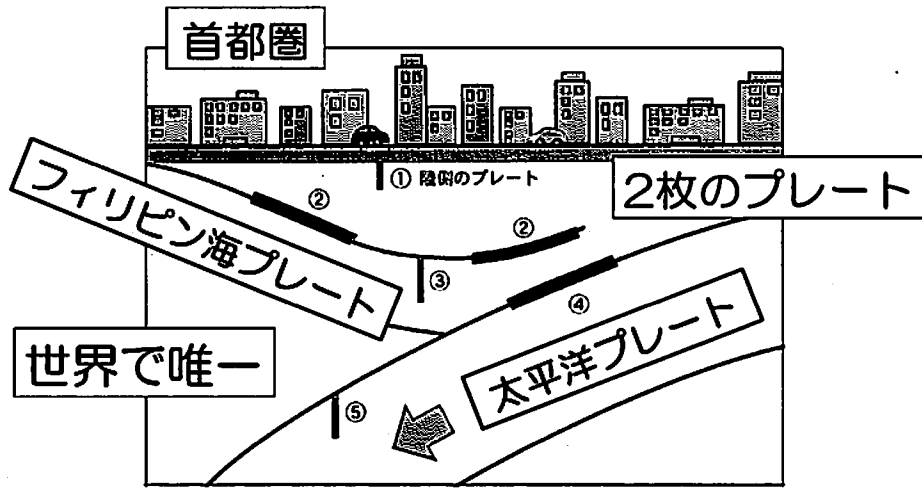
海溝型地震であるが、繰り返し間隔が一定ではない。

1923年	大正関東地震	火災で大被害	↑	220年
1703年	元禄関東地震	津波で大被害	↑	208年
1495年	明応4年8月15日の地震？		↑	202年
1293年	永仁鎌倉地震			

地震は繰り返し発生するが、その間隔だけでなく、発生様式も様々で、次回も同じような地震が起きるとは限らない。

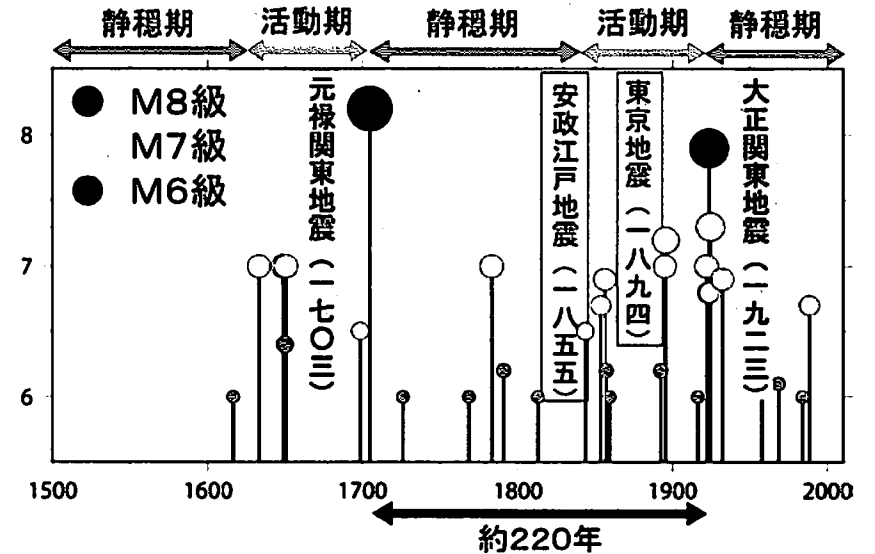
- 想定することは難しいが、しばらく先では…
- ひと回り小さな地震が、起きるかもしれない

首都圏の地震 地下構造はよくわかっていない



首都圏下には2枚の海洋性プレートが沈み込んでいるため、相互の動きがあるため、発生場所や繰り返し間隔が不明。過去に起きた地震も、どこでどの深さで起きたのか不明。

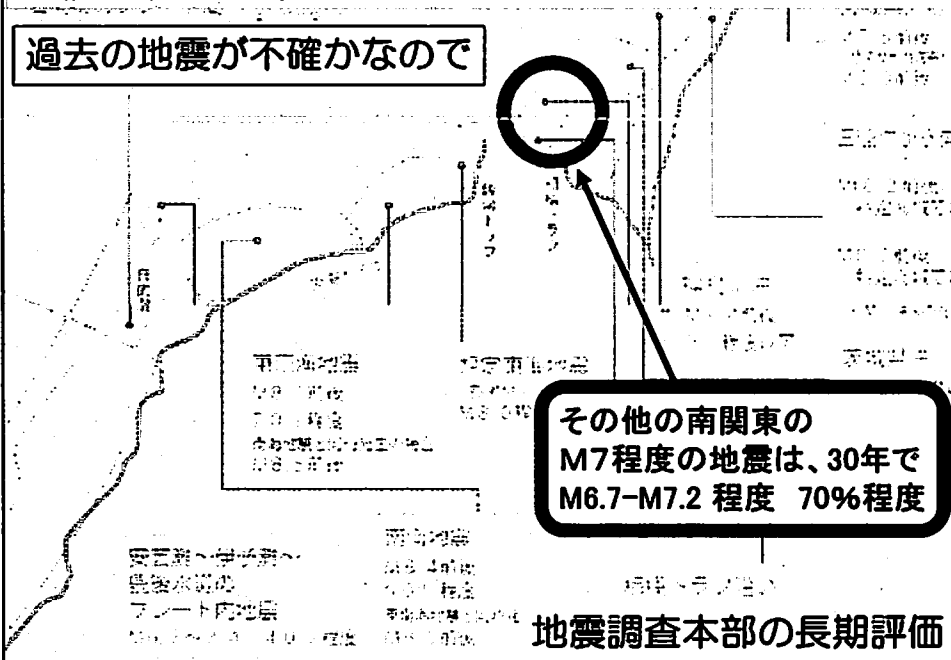
首都圏の地震 南関東地域の歴史上の地震



首都圏は大地震の繰り返しが不明である

首都圏の地震 政府の地震発生確率

過去の地震が不確かなので



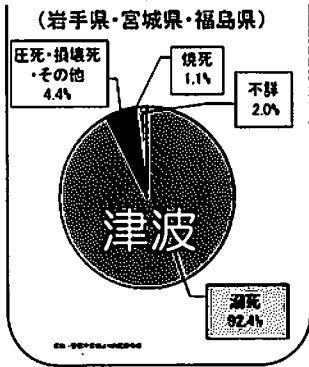
地震調査本部の長期評価

首都圏の地震 何がわからないのか？

- ・いつ、どこで、どんな地震が起きるのか
 - 首都圏の地下はどうなっているのか
 - 首都圏の地震活動度は今後どうなるのか
 - 首都圏の大地震は過去にどこで発生したのか
 - 首都圏の大地震は次にどこで起きるのか
- ・今、首都圏で大地震が発生したらどうなるのか
 - 地震発生後の状況を正しく予測されているか
 - 救助・避難・支援・復旧・復興の準備は
- ・現在の首都圏は、どこが弱いのか、何が弱いのか
 - 大都市ならではの弱点は、どこにあるのか
 - 被害を減らすために足りない物は何なのか

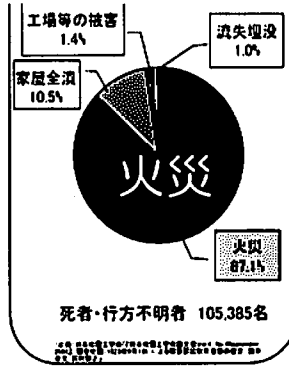
過去の地震災害

東日本大震災

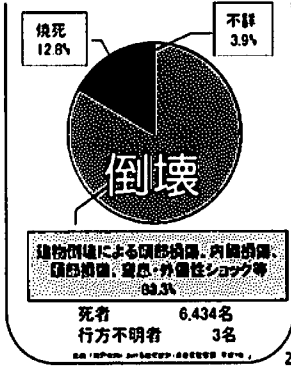


関東地震は火災の被害が甚大

関東大震災



阪神・淡路大震災



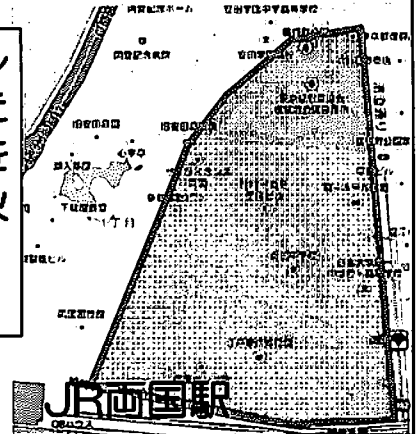
関東地震は、火災による犠牲者が多かった

東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会第1回会合 資料 中央防災会議

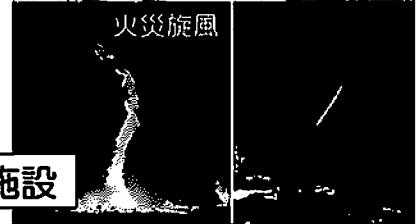
大正関東地震

本所被覆廠跡の惨劇

1922年に陸軍被服廠が移転し樹木の無い野原だった。そのため、多くの被災者が家財道具を持って避難してきた。それに火が燃え移り、大火災が発生し、3万8千余名が亡くなった。



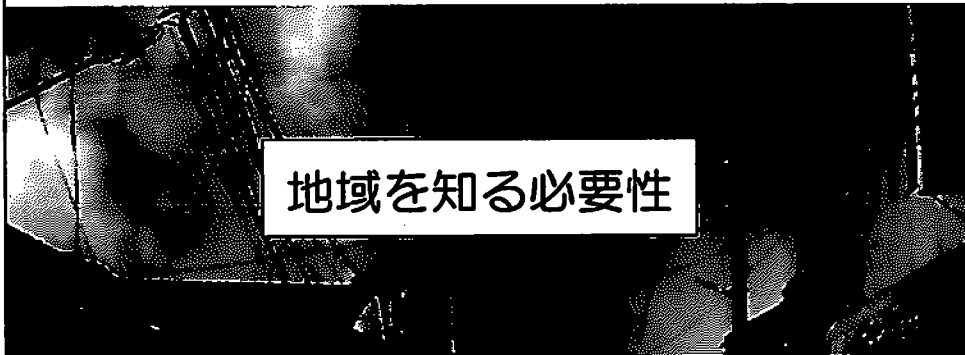
横浜公園にも被災者が集中したが、横浜は家の倒壊が激しく、家財道具を持ち出せなかったため公園内は火災にならなかった。



被服廠：軍服や軍靴等を作る施設

兵庫県南部地震

都市ならではの被害 (火災)



地域を知る必要性

- 時間が経ってからの通電火災 → 電力線とガス管
- 道路が塞がれ消防車が行けない → 区画整理
- 水不足 (断水で消火できない) → 水道管と貯水槽
- 人手不足で延焼を抑えることが困難 → 消防団
- 木造密集地域の耐火対策が必要 → 不燃材での建替

首都直下地震

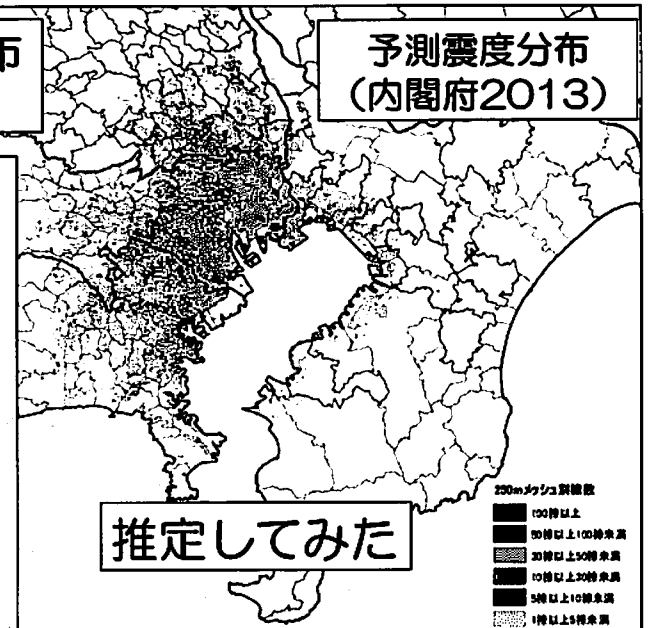
都心南部直下の地震 (M7.3)

全壊家屋数分布 (内閣府)

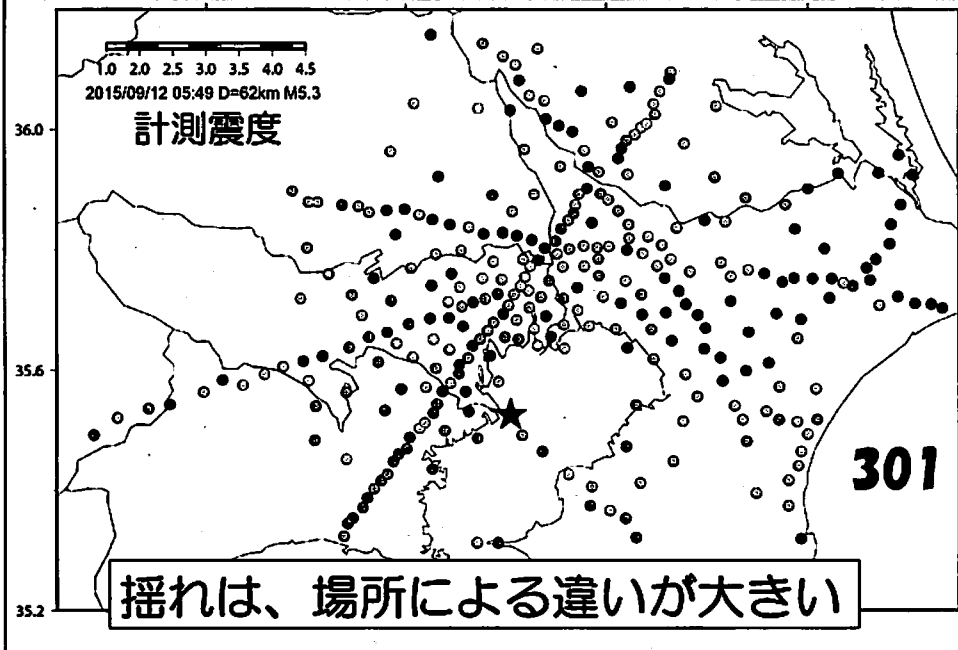
予測震度分布 (内閣府2013)

様々な仮定

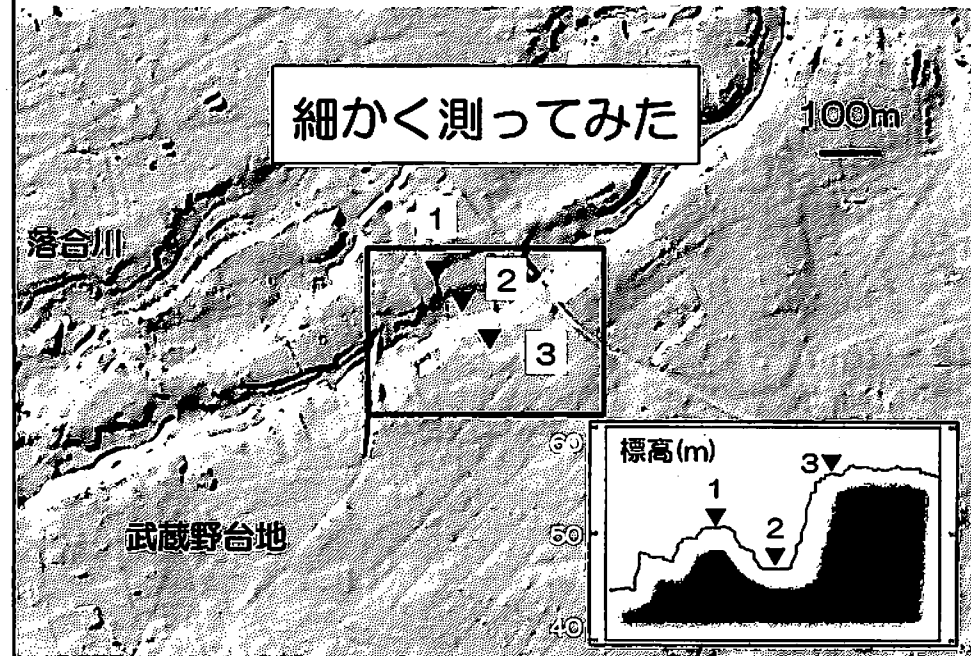
- ・ 断層面の位置
- ・ 地震波の生成
- ・ 地震波の伝播
- ・ 地盤の増幅度
- ・ 建物の種類
- ・ 建物の強度
- ・ そのほか



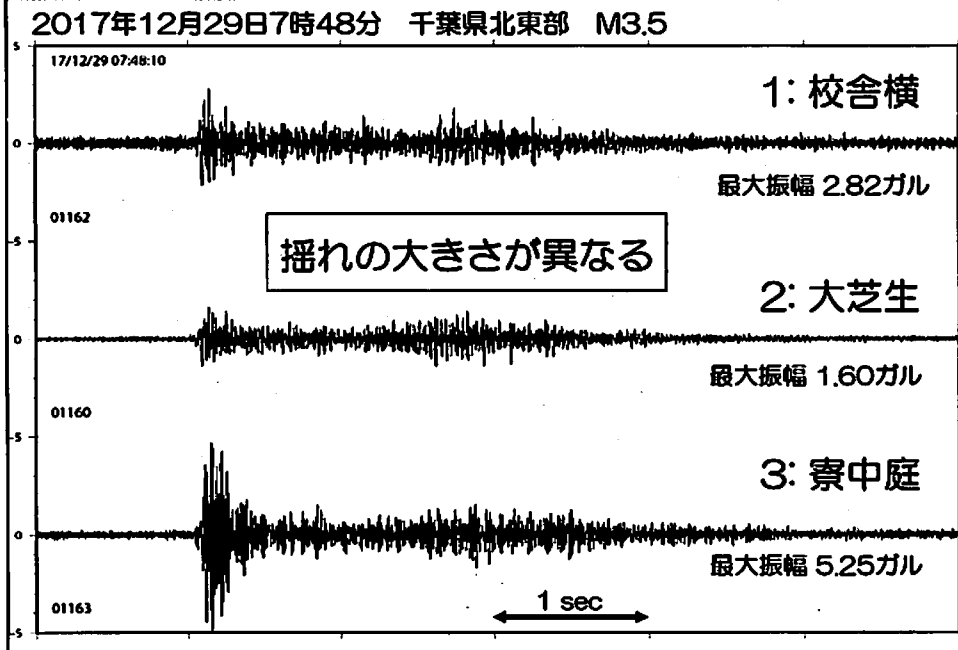
MeSO-net 観測網で観測された計測震度の分布



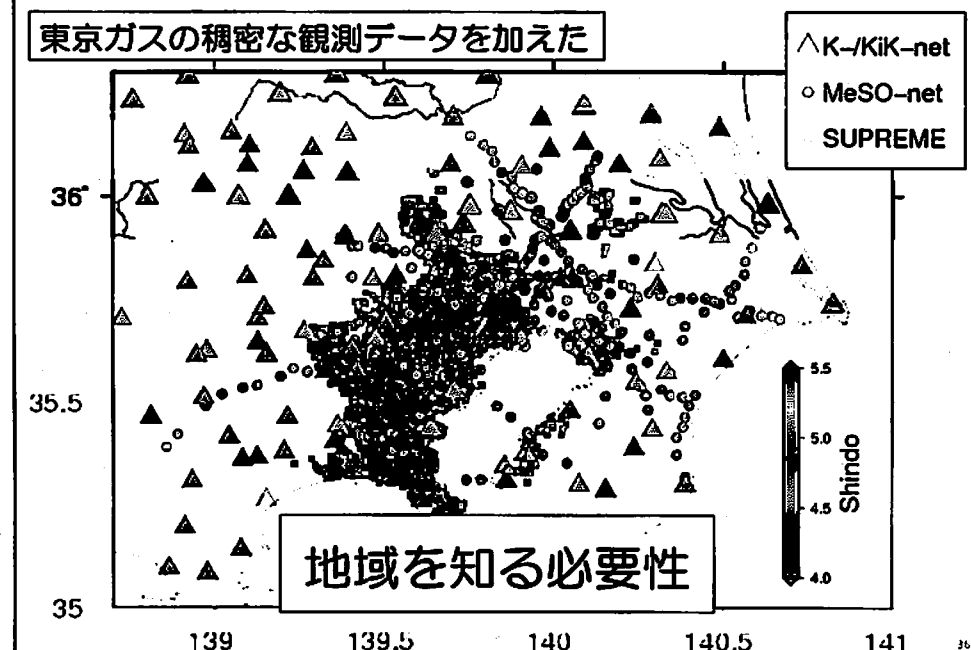
地形・地質の違いによる揺れの大きさの調査



地形・地質の違いによる揺れの大きさを調査

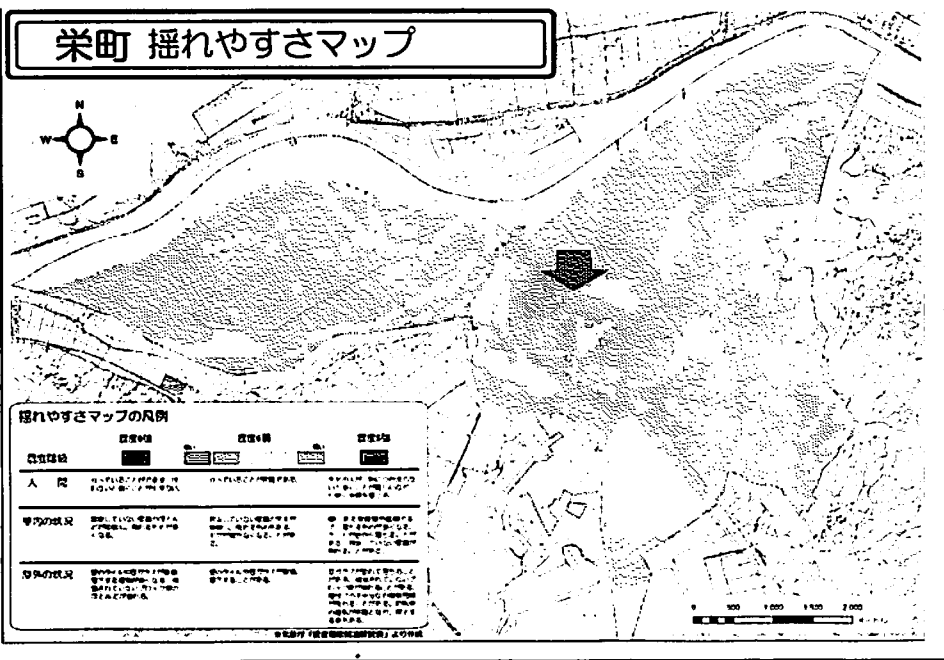


首都圏の計測震度分布 東北地方太平洋沖地震



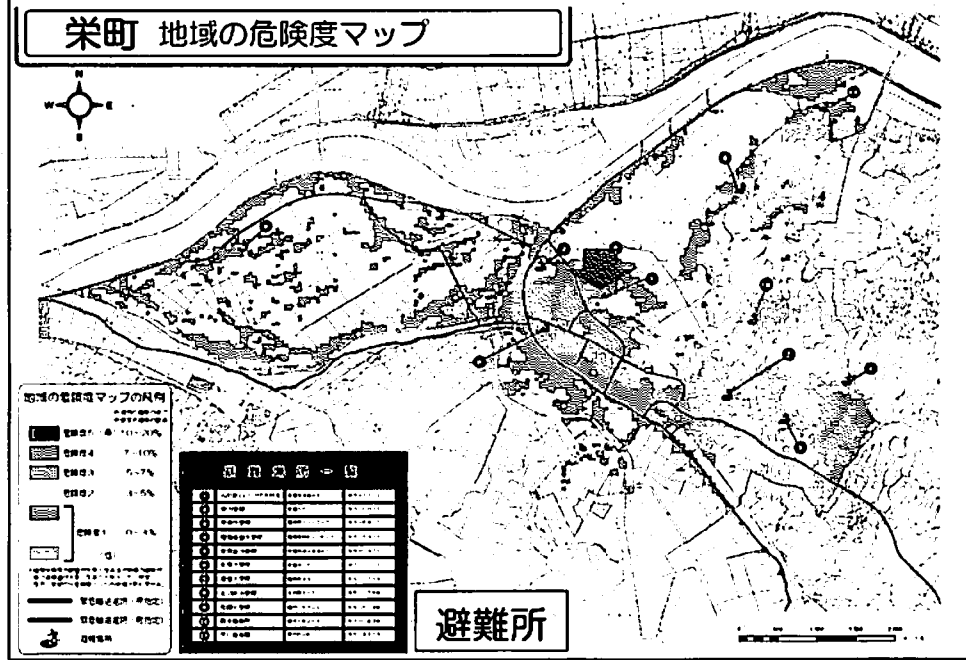
災害に対処する 地域のことを知る

栄町 揺れやすさマップ



災害に対処する 地域のことを知る

栄町 地域の危険度マップ



災害に対処する できる人ができることを

あらかじめ考えておく・調べてみる

- 揺れが大きいのはどこか
- 液状化する危険度が高いのはどこか
- 利根川が決壊したら浸水するのはどこか
- 避難所を作るならどこが良いのか
- 環境情報の取得・把握・伝達手段
- 様々な人のスムーズな避難行動
- 誰が誰を救助・救援するのか
- 避難所の開設・運営・維持
- 被災後の復旧・復興計画



学校現場で役に立つかもしれない話

1. 地震の多い日本
→ 自分で判断して行動
2. 首都圏の地震とは
→ 都市ならではの被害
3. どんなことを学ぶべきか
→ 地域を知る